第２学年２組　体育科学習指導案

１　単元名　　転がしボールゲーム

２　運動の特性と子どもの実態

（１）運動の一般的特性

転がしボールゲームは、攻守ともにアイシェードなどを付けた状態で、相手側にあるゴールにボールを転がす攻防を行い、どちらが多く得点できるかを競い合うことが楽しい運動である。また、攻撃側・守備側ともに、それぞれがお互いの動きやボールの転がるスピードなどを耳で感じながら動くことが楽しいゲームである。

（２）子どもの実態

～省略～

【考察】

Ａ　運動の楽しさの体験状況について

本学級の児童は、体を動かすことが好きな者が多く、休み時間にはほとんどの児童が外に出て、固定遊具やボールを使って元気に遊んでいる様子が見られる。体育の学習についても、全員が「好き」「まあまあ好き」と答えており、体育学習への関心が高い。ボールを使う遊びに関しては、好んでいる児童が多いが、あまり好きでないと答えている児童も３名いる。あまり好きではない理由としては、「投げたり・蹴ったりするのが苦手」「あまりボールを使った遊びをしない」などが挙げられる。一方、好きな理由として、「投げることが好きだから」「ボールを使うと楽しい」などの運動の特性に触れたものが主な理由となっている。

６月に行った１対１の転がしボールゲームの学習においては、ほとんどの児童が好きであると答えているが、速く転がせなかったり、点を入れることができなかったりした経験のある児童があまり好きではないと答えている。その反面、転がしボールゲームが好きと答えている児童は、点を入れるとうれしい、転がすことが好きと答えている児童が多くいることがわかった。

これらのことから、本学級の児童は、今回の単元に対して肯定的に捉えている者が多く、意欲的に活動していけると考える。しかし、点を取れずに悔しい思いをした経験から、楽しんで転がしボールゲームに取り組めない要因となっている児童もいる。そこで本単元では、得意な児童もそうでない児童も楽しめるようにルールやコートを工夫していきたい。さらに、３対３の形式でゲームを行い、１対１のゲームでは体験することができなかった、チームで協力して点を競い合う攻防を味わうことで、誰もが転がしボールゲームに安心して、楽しく取り組むことができるようにしたいと考える。

Ｂ　運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

学習のきまりを守ることや友達との協力については、おおむね「できる」と答えていた。めあて学習については１年生の時から経験しており、「めあてをもてる」とほとんどの児童が答えていた。しかし、２年生になってからの学習の様子では、具体的なめあてをもって学習に臨んでいる児童は少なく、めあての立て方には個人差がある。これらのことから本単元では、転がしボールゲームを楽しむための３つのポイントを明確にし、児童一人一人に自分の達成したいと考えるポイントを選

択させることで、本時のめあてとさせる。

「誰とでも仲良く、体育の学習ができますか」という質問に対しては、ほとんどの児童が「できる」と答えており、普段の学習の様子からも、おおむね協力して学習する様子が見られる。「できない」とした４名の児童は、けんかになってしまったり、いじわるなことを言われたりした経験を理由として挙げている。

そこで、上手にボールを転がすことだけでなく、友達のよかった動きや気付いたことを友達に伝えたり、支える役となって審判や得点の係をしたりと、個人でなくチームとして活動することを目指していきたい。そうすることで、児童が相互にかかわり合い、励まし合いながら、転がしボールゲームの楽しさを味わうとともに、パラスポーツのもつ特性にも触れられると考える。

Ｃ　運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

技能に関する実態調査は、６ｍ・９ｍの位置からボールを転がして、コーンとコーンの間（３ｍ）を通過できるか実態調査をした。コーンとコーンの真ん中には、もう一つコーンを置き、真ん中のコーンをねらって転がせるかも合わせて調べた。記録を見ると、６ｍの位置ではほとんどの児童がコーンの間をしっかり転がすことができているが、女子は片手ではなく両手で転がしており、より正確にコーンをねらっていることがわかった。ただ、両手で転がすことにより、ボールの速さが落ちてしまう児童がほとんどであった。次に９ｍの位置からの記録を見ると、全体で１１名の児童がコーンの間を通過させることができなかった。また、コーンとコーンの真ん中のコーンに当てることができた児童は２名（１名は両手で転がした）と少なく、６ｍの位置から転がした場合よりも両手で転がしている児童が多く見られた。

これらのことから、転がす練習の場（つながる運動）を設定し、ボールをねらった方向へ勢いよく転がす技能を高めることで、転がしボールゲームの楽しさを味わえるようにしていきたい。

３　研究の視点と学習の手だて

（１）市教研体育部会研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

（２）学習の視点と手立て

＜視点１＞	子どもの実態を的確に把握するとともに、運動の特性と指導内容を明確にした上で道すじや学習活動を工夫し、ねらいを明らかにすることで子どもたちが学習意欲やめあてをもって取り組めるようにする。

①　学習の道すじの工夫

本学級の児童の多くは、「誰とでも仲良く体育の学習ができる」と答えているが、中にはけんかになったり、いじわるなことを言ったりしてしまう児童の姿も見られる。そこで、パラスポーツを通して多様性を受け入れ、共生社会の実現を目指そうとする姿を目指したいと考える。

６月の１対１の転がしボールゲームでは、攻撃側と守備側に分かれて、審判の合図で攻撃側がボールを転がし、守備側が得点を防ぐという形で実施した。その際には、守備側が得点を防いだ時の攻守の切り替えは行わず、攻撃側のチームが全員ボールを転がしたのを終えてから、攻撃と守備の交換をするルールで行った。ほとんどの児童がボールを転がす動作や体を倒してボールを止める動作に不安な様子を見せていたが、ゲームを進めるうちにボールの転がる音や相手の動く

物音、床の振動やラインの感触を楽しみながら、転がしボールゲームに取り組む姿が見られた。しかし、実態調査から、ボールを転がすことに課題を抱えている児童が多く、ねらったところに転がしたい、たくさん得点をとりたいという気持ちをもっている児童が多く見られた。

そこで、10月の学習では、毎時間のつながる運動の時間を利用し、１対１で転がす練習を繰り返し行い、ボールをねらった方向へ勢いよく転がす技能を身に付けさせたい。初めは、自分の転がしやすいボールを使い、転がすことに慣れるとともに、友達の上手な転がし方をクラス全員で共有しながら、活動を進めていきたいと考える。

また、１人では解決することができなかった課題を友達と一緒に支え合いながら解決していけるように３対３のゲーム形式で行うことにした。ねらいを「３対３の転がしボールゲームを楽しもう」とし、３対３のチームでゲームを行うことによって、一人一人がゲームを支える役割（プレイヤー、実況、ボール拾い、審判、得点）を楽しく学びながら、お互いに支え合うことで友達のよい動きを見つけたり、考えたりしたことを友達に伝えることも大事にしていきたい。多くのゲームを経験する中で、うまくいったことや疑問に思ったことを掲示物に書き出していくことで、クラス全体の一体感が高まり、パラスポーツへの関心を高められるようにしていきたいと考える。

＜視点２＞　一人一人のよさを伸ばし、できる喜びを実感できる手立てを工夫する。

①　ルールの工夫

基本のルールについては、以下のようにするが、学習を進める上で、修正や追加が必要な部分については児童と話し合いながら追加していく（※細かいルールについては、Ｐ９参照）

○プレイヤー以外は、支える役「実況」「ボール拾い」「審判」「得点」の役割分担をする。
○審判の「プレイ」の合図で、１０秒以内に転がす。
○攻撃側がボールを転がし得点が入った場合や、得点が入らず守備側に止められる、コースアウトしてしまった場合など、審判のプレイの合図がかかるまでは転がせない。
○３つの言葉を合言葉とし、ゲーム中はプレイヤー以外が復唱をする。
「キャッチ」・・・守備側がボールをキャッチしたとき。
「プレイ」　・・・ボールを転がす合図。
「アウト」　・・・ボールがラインから出てしまったとき。

一般的に３対３のゴールボールのゲームでは、攻撃側がボールを転がした時点で攻守交代となり攻撃権が移り、守備側がボールを獲得したのち、すぐにボールを転がすことができる。しかし、児童の実態から、本時では守備側がボールを獲得してもすぐに転がすことはできず、一度「プレイ」の合図をかけることをルールとした。そのことでゲームに参加している全ての児童が安心してゲームに臨めることができ、自分たちのチームの状況を把握できると考えた。

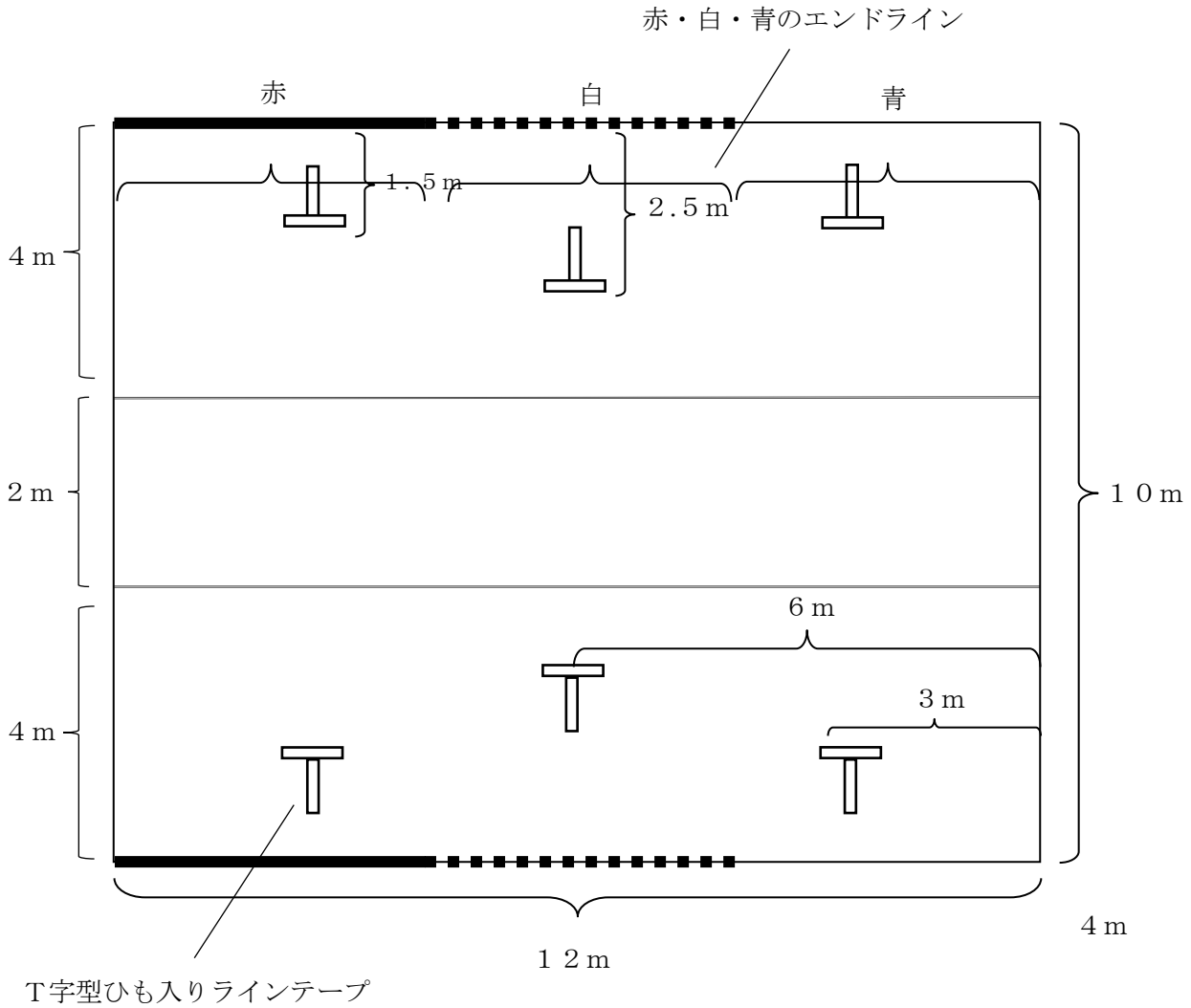
３つの合言葉を試合中にプレイヤー以外の児童が復唱することで、自分たちの置かれているゲームの状況が把握できるとともに、場の雰囲気が盛り上がり、チームとしての連帯感も高まると考えた。また、赤・白・青のゾーンを設けることで、転がす児童がねらう方向をつけやすくなり、実況する児童のアドバイスもしやすくなると考えた。コートでゲームをするプレイヤーだけでなく、支える役割を設けることで、誰もが転がしボールゲームに参加して支えていることを実感していけるようにしていきたい。

② コートの工夫

コートについては、実態調査から９m以上の長い距離を転がすことは難しいと考え、コートの縦を１０mとした。縦を１０mとすることで、どこの位置から転がしても９m以下の距離で転がすことができ、３対３の試合に取り組めやすくなると考える。横は１２mとし、守備側の一人の守る範囲が広くなった分、攻撃側にとって得点が入りやすいようなコートを用意した。それにより、ボールを転がすことへの不安をもった児童が、自信をもって学習に取り組めると考える。

エンドラインには４m間隔で、赤・白・青とラインテープを貼り、３つのゾーンを設置した。そうすることで、転がす児童がねらう方向を定めやすくなるとともに、サポートする側も「青ゾーンから少し右にずれていた。」などと具体的にアドバイスしやすくなると考えた。また、同時に３ゲーム行えるように３面コートを確保し、１チーム５人（６人）のチームとすることで、全てのチームが常にゲームをできるようにする。

＜コート図＞



４　学習のねらい

○転がしボールゲームの行い方を知り、目隠しをした状態でボールをねらった方向へ転がしたり、音を聞いたりして転がってきたボールを止められるようにする。【知識及び技能】

○ボールを転がしたり止めたりするときに行った工夫や考えたことを友達に伝えられるようにする。【思考力・判断力・表現力】

○転がしボールゲームに進んで取り組むとともに、友達と協力してゲームを支える役割を行い、パラスポーツへの関心を高められるようにする。【主体的に学習に取組む態度】

5　評価規準　概ね満足できる状況（B）※【　　】は現行の学習指導要領での観点

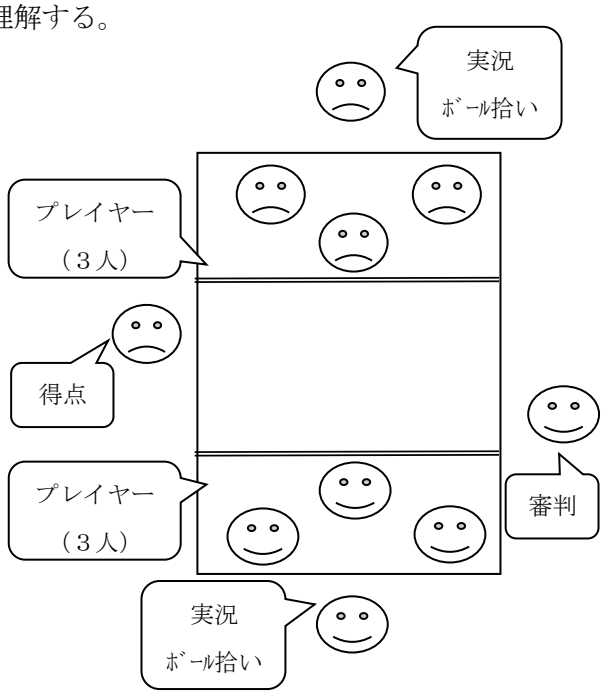
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取組む態度
単元の評価規準	・ボールゲームの行い方を知ることができる。【思考・判断】 ・ねらったところにボールを転がす、投げる、蹴る、的に当てる、得点することができる。【技能】 ・相手コートにボールを投げ入れたり、捕ったりすることができる。【技能】 ・ボールを捕ったり止めたりすることができる。【技能】 ・ボールが飛んだり転がったりしてくるコースへ移動することができる。【技能】 ・ボールを操作できる位置へ移動できる。【技能】	・簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えている。【思考・判断】	・運動遊びに進んで取り組んでいる。【態度】 ・規則を守り、誰とでも仲良く運動している 。【態度】 ・勝敗を受け入れている。【態度】 ・友達の考えを認めている。【態度】 ・場や用具の安全に気を付けている。【態度】
学習活動に即した評価規準	① 転がしボールゲームの行い方を知ることができる。【思考・判断】 ② 目隠しをした状態で、ボールをねらった方向へ転がすことができる。【技能】 ③ 目隠しをした状態で、ボールを止めることができる。【技能】	① ボールを捕ったり、止めたりするときに行った工夫や考えたことを友達に伝えている。【思考・判断】	① 転がしボールゲームに進んで取り組んでいる。【態度】 ② 規則やマナーを守り、仲良く運動している。【態度】 ③ 運動をするだけでなく、ゲームを支える役割を楽しく行っている。【態度】 ④ パラスポーツへの関心を高めている。【態度】

6　学習の道すじ

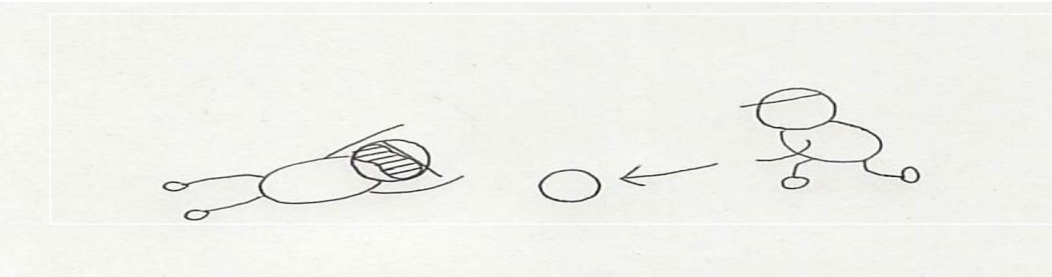
	6月実施				10月実施			
	1	2	3	4	5	6	7（本時）	8
0 ↓ 45	オリエンテーション ・競技映像の視聴	つながる運動（２人でころがし遊び） ねらい やさしいルールで「ころがしボールゲーム」を楽しもう。		まとめ	オリエンテーション	つながる運動（ころころゲーム） ねらい ３たい３の「ころがしボールゲーム」を楽しもう。		まとめ
知・技		①	②	③		①	②	③
思・判・表				①				①
主体的	①④	②	③		①④	②	③	④

※パラスポーツへの理解関心を高めるとともに、多様性を受け入れ、共生社会の実現を目指そうとする態度を育むため、オリエンテーションや配当時間外の時間を使い、ゴールボールの実際の競技映像を見せて競技の様子をつかませたり、ゴールボールのルールを紹介したりする。

7　学習活動と支援

	学習活動と内容	教師の支援（○）評価（◇）
はじめ	1　オリエンテーションをする。 ○学習のねらいを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○用具の使い方や場の安全について理解する。 ○学習カード、学習資料の活用方法について理解する。 ○場作りについて理解する。 【約束】 ・ ゲームのはじめとおわりのあいさつをしっかりとしよう。 ・ 投げる準備ができたら静かにしよう。 ・ プレイが終わったら、友達によかったことや次へのアドバイスを話してあげよう。 ・ 決まりを守り、勝っても負けても、友達と楽しく学習しよう。 【用具】 ・ メロディーボール（数種類） ・ マーカーコーン ・ 得点板　・ビブス ・ アイシェード　・ライン  2　基本のルールを確認する。 【基本のルール】 ・ １チーム５人（６人）で行う。 ・ ゲーム時間は、前半５分、ハーフタイム２分、後半５分とする。 ・ ボールは片手で転がしても両手で転がしてもよい。 ・ 審判はセルフジャッジで行う。（得点やサイドラインのジャッジ） ・ プレイヤー以外は、支える役「実況」「ボール拾い」「審判」「得点」の役割分担をする。 ・ 審判の「プレイ」の合図で、１０秒以内に転がす。 ・ 攻撃側がボールを転がして得点が入った場合や、得点が入らず守備側に止められる、サイドラインからボールが出てしまった場合など、審判の「プレイ」の合図がかかるまでは転がせない。また、一番近くのプレイヤーから転がしてゲームを再開する。 ・ ３つの言葉を合言葉とし、ゲーム中はプレイヤー以外の全員で復唱をする。 「キャッチ」・・・守備側がボールをキャッチしたとき。 「プレイ」　・・・ボールを転がす合図。 「アウト」　・・・ボールがラインから出てしまったとき。 3　つながる運動と試しのゲームをする。 ○つながる運動 ・ころころゲーム（ねらいを定めて勢いよく転がし、音を全身でとらえる練習） ２人１組になり、転がす児童はアイシェードをせず、受け止める児童はアイシェードをする。	

合図をして受け止める児童に転がし、受け止める側が点を防いだら得点なし、転がす側が得点できたら１点とする。交代しながら一定時間繰り返し、何点取れたか競う。



〇試しのゲームでは、目を開けた状態でゲームを行いながら、ルールや流れを確認する。
◇転がしボールゲームに進んで取り組んでいる。【主体的に学習に取組む態度①】
◇パラスポーツへの関心を高めている。【主体的に学習に取組む態度④】

なか	1　学習の場作りをする。	〇周囲に危険なものがないかを十分に確認する。
	2　準備運動、つながる運動をする。 〇ころころゲーム ・ねらいを定めて勢いよく転がし、音を全身でとらえる練習	〇手首・足首・腕・肩など使うところを中心に、しっかり伸ばすよう指導する。 〇ボール操作に慣れることができるよう体の使い方や、動きのポイントを確認しながら進める。 ◇規則やマナーを守り、仲良く運動している。 【主体的に学習に取組む態度②】
	3　本時のめあてを確認する。 ・ねらったところにボールを転がす。 ・体全体でボールを止める。 ・友達に気付いたことを伝える。	〇マナーについても確認する。 〇自分に合っためあてをもっているか確認するために、前時までの活動の様子を振り返る。 〇今日の活動の場、相手がわかるようにコートごとにその場に立って対戦相手を確認できるよう支援する。

＜ねらい＞　３たい３の「ころがしボールゲーム」を楽しもう。

【対戦表】

＜第２時＞

リーグ戦１ゲーム目	リーグ戦２ゲーム目	リーグ戦３ゲーム目
A コート　①－⑤	A コート　⑤－④	A コート　④－③
B コート　②－④	B コート　①－③	B コート　⑤－②
C コート　③－⑥	C コート　②－⑥	C コート　①－⑥

＜第３時＞

＜第４時＞

リーグ戦４ゲーム目	リーグ戦５ゲーム目
A コート　③－②	A コート　②－①
B コート　④－①	B コート　③－⑤
C コート　⑤－⑥	C コート　④－⑥

	４　転がしボールゲームを行う。(第１ゲーム) ○チーム内で役割分担を確認し、スムーズにゲームが進行できるようにする。 ・プレイヤー（３人）　・実況 ・ボール拾い　・審判　・得点 はじめのルール ○ゲームは、プレイヤーの３人対３人 ○プレイヤー以外は、支える役の役割分担をする。 ○ゲーム時間は「前半５分・ハーフタイム２分・後半５分」とする。 ○審判はセルフジャッジで行う。 （得点やサイドラインのジャッジ） ○審判のプレイの合図で１０秒以内に転がす。 ※はじめのルールを基本として、子どもたちの話し合いながら、新しいルールを追加したり、修正したりして進めていく。 ・第２ゲームを行う。 ５　学習を振り返る。 ・学習カードに今日の振り返りをする。 ・よかったところ、気付いたところを全体で確認する。 ６　片付けと整理運動を行い、あいさつをする。	○ゲームの始めと終わりのあいさつを行うことを確認する。 ○安全にゲームができるよう、実況係やボール拾い係の児童が、転がす友達に声をかけたり、ボールを手渡したりすることができるように教師が助言する。 ○うまく転がせない子どもには、体の向きや腕の使い方を個別に指導する。 ○実況や審判などで困っている児童には、教師がそばに付き一緒に活動を行う。 ○よい動きやよいサポートをしている子どもを称賛する。 ○うまく守れない児童には、体全体を使って倒れこんで守るよう個別に指導する。 ◇運動をするだけでなく、ゲームを支える役割を楽しく行っている。【主体的に学習に取組む態度③】 ◇目隠しをした状態で、ボールをねらった方向へ転がすことができる。【知識・技能②】 ◇ボールを捕ったり、止めたりするときに行った工夫や考えたことを友達に伝えている。【思考力・判断力・表現力等①】 ◇目隠しをした状態で、ボールを止めることができる。【知識・技能③】 ○よい動きやまねしたい動きを発表するよう促し、全体で共有する。 ○全体で確認したほうがよい事項を取り上げ、次時につなげられるようにする。
まとめ	○転がしボールゲームの行い方を知り、目隠しをした状態でボールをねらった方向へ転がしたり、音を聞いて転がってきたボールを止めたりすることができたか。 ○ボールを転がしたり止めたりするときに行った工夫や考えたことを友達に伝えられたか。 ○転がしボールゲームに進んで取り組むとともに、友達と協力してゲームを支える役割を行い、パラスポーツへの関心を高めることができたか。 ◇パラスポーツへの関心を高めている。【主体的に学習に取組む態度④】	